

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号
------	-------	---

氏 名 松山 旭

論 文 題 目 脳卒中片麻痺患者の歩行能力への影響因子

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 玉腰 浩司

名古屋大学教授 内山 靖

名古屋大学教授 池松 裕子

論文審査の結果の要旨

脳卒中片麻痺患者は、運動麻痺により、痙性歩行などの歩行障害が残存することが多く、日常生活活動（ADL）や生活の質（QOL）に支障をきたす。すなわち、歩行の要否は、脳卒中片麻痺患者にとって、今後の人生に大きく影響すると言える。脳卒中発症後早期からの短時間で頻回なリハビリテーションは予後良好であり、死亡率や合併症を低下させることが報告されている。しかし、脳卒中片麻痺患者が歩行練習をするにあたっては、様々な危険を伴う。例えば、転倒の経験による転倒恐怖感、QOL、身体面、そして、不安やうつ等の精神面に影響することがわかっている。したがって、歩行練習を開始する際には、看護師がベッドサイドにおいて、歩行開始の成否にかかわる因子を適切にアセスメントする必要がある。

本研究では、研究Ⅰと研究Ⅱの2段階の研究を通し、脳卒中発症後早期からの歩行練習開始のアセスメントに活用するために、脳卒中片麻痺患者の歩行に影響する因子を身体面・精神面・社会面から明らかにすることを目的とした。研究Ⅰでは、脳卒中片麻痺患者の身体面の因子として使用する、市販体重計を用いた下肢筋力測定方法の信頼性と下肢筋力測定としての妥当性を検証した。研究Ⅱでは、発症後1ヶ月から1年未満の初発脳卒中片麻痺患者80名に測定および質問紙調査を行い、歩行に影響する身体面・精神面・社会面の因子を探索した。




本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 市販体重計を用いた下肢荷重力測定は高い検者間および検者内信頼性を示した。
2. 市販体重計を用いた下肢荷重力は膝伸展筋力との相関はなかった。
3. 歩行能力(FIM 移動項目得点)に影響しているのは脳卒中の重症度(NIHSS)、非麻痺側下肢荷重力、運動麻痺の程度(下肢 BRS)、スピリチュアリティ(SRS-A)であった。
4. 歩行介助の要否(FIM 移動項目 6点で区分)に影響しているのはソーシャルサポート(日本語版「ソーシャルサポート尺度」短縮版)、運動麻痺の程度(下肢 BRS)、非麻痺側下肢荷重力であった。




本研究は、脳卒中患者の歩行練習を援助する看護師に有意義な知見を提供するとともに、多職種連携による脳卒中患者歩行支援の可能性を示唆した。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	松山 旭
試験担当者	主査 名古屋大学教授 玉腰 浩司 	名古屋大学教授 内山 靖 	名古屋大学教授 池松 裕子 	
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重回帰分析の結果解釈について 2. 下肢荷重力測定の意義について 3. 看護師が下肢荷重力を測定する意義について 4. 本研究の看護学における意義について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号	氏 名	松山 旭
学力審査担当者	主査 名古屋大学教授 玉腰 浩司 	名古屋大学教授 内山 靖 	名古屋大学教授 池松 裕子 	
(学力審査の結果の要旨)				
<p>以下の問題について口頭試問を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 脳卒中患者の歩行の特徴について2. 筋力測定について3. 看護学におけるスピリチュアリティとソーシャルサポートの位置づけについて4. 重回帰分析とロジスティック回帰分析について				
<p>以上の試験の結果、本人は看護学一般における知識と研究の基礎的能力を十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				